

11月2日の授業への質問・コメントへの回答

Q：びわ湖の動植物を調べている人は全員日本人だと思っていたので、ロシアの方もいると知って驚きました。

A：びわ湖には非常に多くの種類の生物が住んでいます。中には固有種もありますが、本当に世界中で琵琶湖にしか住んでいないかを確認するには、世界中の生物と比較しなければいけません。ロシアだけでなく、いろいろな国の研究者がびわ湖に関心をもっています。

Q：びわ湖は構造湖ですが、地震がおきる可能性があるのですか？

A：びわ湖の近くの断層について調べてみましょう。日本列島で地震が起きない場所はないだろう、ということも忘れずに。

Q：昔は湖だったけれど今は埋まってしまったような湖はどんな調査をしたらそのことがわかりますか？

A：地層を調べると、水の底に特徴的な土が出るようです。湖の大きさは、同じような土が発見される地域の広がりから推定するようです。

Q：べん毛は移動のためだけにあるのでしょうか。

A：主に移動器官であると考えられています。最近、ある生物では感覚器官の役目を持つことが発見されニュースになりました。(調べてみてください)

Q：湖の成因がいろいろあることにびっくりしました。

A：ぜひ、旅行する機会があれば湖について調べてみてください。湖がある風景と湖の成因を考えながら旅行するのは、大学生らしいと思います。

Q：湖がどんどん湿地になっているなら、どんどん数が減るのではないのでしょうか？

A：あたらしく生まれる湖もあります。興味があったら日本で一番新しい湖を調べてみてください。

Q：あまり授業中に質問をうけないでください。進みません。

A：大学の授業は、知識を与える場ではなく、知識の吸収の仕方を学ぶ場とお考えください。これが高校までとの大きな違いです。この講義で説明できるのは、琵琶湖に関する知識のほんの一部です。おもしろいな、と思ったら後はみなさんが自分で知識を吸収する方法を考えてみてください。

Q：魚もプランクトンになる場合があるとして驚いた

A：クラゲもプランクトンとなることがありますし、マンボウもプランクトンと扱われることがあります。

Q：びわ湖の生物の多さに驚いた

A：全部みてみたいですね。

Q：魚の話を詳しくしてほしいです。

A：あまり特定の生物を詳しく話すつもりはありません。興味があれば是非自分で調べてみてください。

Q：水草と藻の違いを理解しないとこんがらがると思った。

A：専門家と一般の人で、使っている言葉の不一致で議論がおかしくなるケースをよく見ます。

Q：びわ湖がなくなることは決してないのか？

A：びわ湖の堆積速度は、年に数ミリメートルと考えられています。単純に考えると100m埋まるには、数十万年。

Q：なぜ構造湖が古代湖になるのですか？

A：構造湖は深い湖が多いこと、堆積作用を受けても、さらに深くなる地面の動きがあることなど。

Q：水草と藻、海藻と海草の違いはなんですか？

A：水草は水中に維管束植物、藻は単細胞（あるいはその群体）の一般的名称。海藻は海にいる藻、海草は海にいる維管束植物。

Q：ブラックバスなどは湖岸にいるのですか？

A：やや待ち伏せ型の採餌方法をとる魚なので、沖よりも湖岸のほうが餌が食べやすいのだと思います。

Q：プランクトンを水槽で飼うことはできるのですか？

A：簡単ですが、長い間飼うのは難しいかもしれません。理由を考えてみよう。

Q：動物の定義が有機物を取り込む能力があるということが驚きました。

A：アリストテレスは、動物と植物を移動能力で分けましたが、分類学の父といわれるカール・フォン・リンネは、栄養（有機物）を自分で作り出せるかどうか、を動物と植物を分ける基準に加えました。現在では、生物は動物と植物の2つではなく、もっと細かく区別する方法がよく用いられます。○界説ということについて、調べてみてください。